

子どもが変わるには・・・

失敗を学びに変えてあげられるか

2018.05.10

No.09

校長 渡邊 幸二

子どもって本当に面白いですよ。って言うか、わからないし、不思議だし、かわいいし、すごいなあって思うし、頭いいなあと感心したり・・・

ただ、子どもですので基本的に「わからない」「知らない」「できない」は当たり前。失敗はするしまちがうことも多々あるし、その割には自分でやりたがるし・・・。

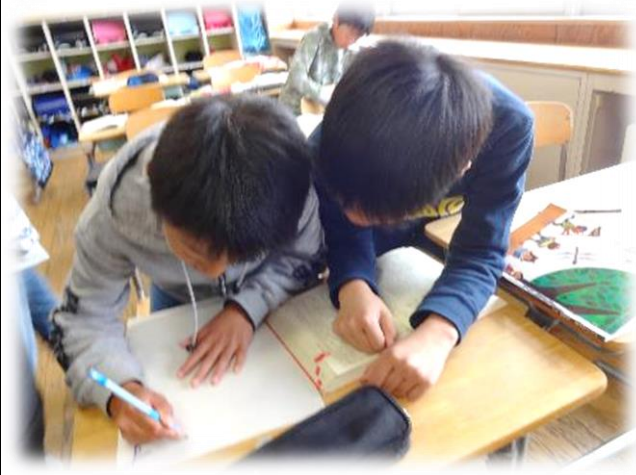
でも、そういう存在だと思って、上から目線で「教えてあげよう」としたり、「やってあげよう」としたり、「できないことを指摘」したり「間違いを正す」ことに明け暮れたりしたら、きっと子どもからは大反発を食らうことでしょう。



できなかったこと、まちがった行為、失敗を学びにつなげる

時間に遅れたり、廊下を走ったりなどの失敗をしたら、それを子どもたちの問題に変換してあげることが必要です。先生や親だけが困って、そして結局は感情的に子どもを叱ってしまう、怒りをぶつけてしまう・・・案外こういう営みが学校でも家庭でもくり返されているのかもしれない。

不足の部分(できないこと)、失敗、かっこ悪いところ、社会的に見てだめなところなどの姿を、子どもたちは毎日私たちに見せてくれます。たとえば言葉遣いが乱暴だったり、廊下を大声で騒ぎながら走ったり、あいさつがあまりできなかつたり・・・という姿です。私たちの問題でもあるのですが、結局のところ**子どもが問題として感じ、自分たちで納得して行動を変えようとしなければ**、つまり教師に押し付けられて、やらされて行動が変わっているのではなく、**自らが考え行動していなければ**、その過ちはくり返されます。



どうか、子どもたち自らが問題として捉え、自らの姿を見つめ直し改善できるよう指導してください。当然ですが、その時、教師としてのスタンスの違い(ある先生は注意しある先生は注意しないなど)が出れば、子どもたちは迷い、結局正しい行動は定着しません。指導者サイドとしてしっかり共通理解し、同一歩調の指導をお願いします。

よさに注目を

子どもたちの行動を何とか良い方向に変えたいと思う時も、ダメな部分に注目し「～なことをしてはいけません。」とか「……しなさい。」のように否定・命令しては、先ほど述べたとおりその時だけのやられた改善となるでしょう。

やはり、教師が負の部分よりもよさに注目することが大切だと思います。

先日は、止まってくれた車にお礼を言った子どもがいたと電話がありました。そうじを一生懸命している子どもがいました。廊下ですれ違う時、会釈をしてくれた子どもがいました。そういうよさに、くり返し注目していくことが大切です。

でも、やんちゃな子どもや発達障害が疑われるような子どもだと、どうしても叱られてしまうような場面が一日の中で多くなりがちです。しかし、それをいちいち注意していたら、つまりそのダメな部分に教師が注目しては、子どもの行動・思考は改善されません。そういうお子さんの場合、**当たり前**の行動、たとえば座っているとかが、当番の仕事をしたとか、そういうよさに注目すればいいのです。そして、教師が感情を込めて、その行動を学級の子どもたちと一緒に喜んであげればいいのです。

温かな教育をよろしくお願いします。（もちろん時に非常に厳しい指導も！）

何か困ったことがあったら

これからも、おそらく毎日のように先生方にとって困ってしまうような出来事が起こるでしょう。学校は、人が人として成長していこうとする場ですので、それは仕方のないことです。失敗やまちがいから、人はたくさんのかを学ぶからです。

ですから、先生方には、そういう出来事が起きても、**逃げないで飛び込む姿勢**が大切になります。私たちも人ですので、誰かのせいにしたり困ったことから目を逸らしたりしたくなる時もあります。そうやってやり過ごしても、しばらくの間は何も起こらないことが多いかもしれませんが、しかし、逃げていけば、必ず大きなしっぺ返しがかかります。何より、せっかくの教育の場を逃していることの損失は大きいでしょう。**子どもと向き合う**ということは、逃げずに向き合うということです。

また、保護者とかかわりを持った方がいい場面も多くなると思います。電話をしたり

連絡帳でお知らせしたりという場面です。しかし、基本は **face to face** です。できれば、**学校からのお知らせの多くが「よい便り」となるよう**、子どもたちのよさを拾い集めては、保護者のみなさんにお伝えするようにしてください。「また学校から電話来た……どんな嫌な話だろう」なんて思わせないような関係をつくり上げるには、**face to face** で保護者に飛び込む勇気が絶対に必要です。

